民主主義の旗
NO25
発行所
民主主義学生同盟
全国委員会編集局
（1部10円）

社会科学
良書の店
曾根崎書店
北区高垣町85
電話（361）6721

5・20、21統一行動 圧倒的に成功

東京関西で一万人決起

原潜三たび寄港 直ちに抗議行動を

全世界の反対と抗議の嵐の中で、米帝国主義は一時的にベトナム北爆を中止するという欺瞞的態度をとったが、その再開後は、一層狂暴さを増し、ドミニカにおいても侵略政策を露骨に出している。しかし国際的世論は日増しに強くなり、全米科学者討論集会の開催、OAS加盟国ボリビア、コロンビアでは自国政府の戦争協力に抗議行動が広範に行なわれている。

一方、佐藤政府は、日韓会談早期調印で米国に加担し、米国の戦争政策に積極的支持を表明した。

国内における、全国的統一行動がない中で、五月二〇日、二十一日、全国学生統一行動が行なわれ、東京六千、関西四千名の学友を中心として、全国の学生が決起し、高揚のきざしをみせている。

この行動をふまえ、関西学協から、六・四行動が提起されたが、まだ全学友を包含することができず、分裂した行動が固定化している現在、なおも撤底的なクラス討論による根こそぎ動員と、それに支えられた、全学生の統一した行動が要望されている。

又、二十五日、三度原潜スヌック号が佐世保に入港した。今すぐ強力な抗議行動が必要とされる。

千五百名がプラカードデモ展開

——大阪府学連——

全国学生統一行動日の五月二十日、大阪では府学連の下「米のベトナムにおける北爆、北進反対、即時撤退要求、日韓会談阻止」のスローガンを掲げ、雨中千五百名の学友が中之島公園で府学連集会を行ない、難波までデモ行進した。

阪大八百名、市大二百名、学大工大各々百名、を中心とし、外大、府大、関大などをあわせ、中之島に結集した千五百名の学友は、現在の状勢に対応するには、なによりも学生の統一した行動の必要性を確認した。

しかし、平民「第二府学連」は再度の統一の呼びかけにもかかわらず、場所を変え三百名で分裂集会をもった。この行動に対し学生は「府学連、全学連があるのは学生の利益を守るためではないのか」「自治会民主主義を何んと考えているのだろう」「こんな重要な段階で、分裂した行動をするのはもってのほかだ」「どちらの府学連という問題ではない。日韓会談を粉砕するには、まず行動を統一しなければだめだ」等の激しい抗議の声があがっていた。

集会後、雨のふりしきるなかを傘もささず、学生の大半がプラカードを持った巨大なプラカードデモが展開された。途中、官憲からの度重さなる挑撥があったが、全学生はずぶぬれになりながら、整然としたデモを続け、シュープレヒコール、ビラ、プラカードで市民、労働者に、米の戦争政策、佐藤政府の協力、日韓会談の本質を訴え、六月四日の全関西学生統一行動を早急に各クラスで、自治会で準備することをちかい、難波で解散した。

首都の運動高揚のきざし

だが分裂した二つの行動

——東京都——

全国学生統一行動日の五月二十日、二十一日東京において分裂した行動であったけれども、「米国のベトナム侵略反対、北爆北進即時中止、米軍のベトナムからの撤退、日本政府の加担反対、日韓会談粉砕」のための集会、デモが行なわれた。

二十日、「全学連」の呼びかけで第四波統一行動がもたれ、三千名の学生が平和を守るために決起した。

又、二十一日には、「都学連再建準備会」により、東大Cの大管法以来の全日ストを含む、東医歯大、東工大のストを中心とし、二千五百名の学生がベトナムに平和をもたらし、日韓会談を阻止するために行動を起した。

しかし、この分裂と混迷の状況の下で、今後統一した行動を展開し、都学連を再建し、首都の学生運動を圧倒的な規模で成功させるのは、非常に困難であることを考えさせられた。

全国で学友決起

岡山大学においては、二十日「原潜日韓共闘」の呼びかけに答えて、兵庫では、六百名の学友を結集し、統一行動が持たれた。

雨の中、神戸大五百名、関学、外大を中心として兵庫県学生共闘会議の下に集まった、六百名の学生は、神戸市内において、市役所から領事館を通り自民党本部をデモ行進した。途中神戸領事館において、ベトナム侵略反対、北進北爆即時中止、米軍撤退を要求し、抗議団を派遣した。

デモ後、六月四日の関西学生統一行動を再度、先進的に闘うことを確認した。

しかし、平民学連系は、全学連統一行動に固執し、大倉山で百五十人の学生を集め別個の集会をもち、神戸でも分裂行動を行なった。

八百名、先進的に闘う

——京都府学連——

「アメリカ帝国主義のベトナム侵略反対、日韓条約批准阻止」を主要スローガンとする、五・二〇全国学生統一行動の一かんとして、京都では府学連統一行動としてもたれ、雨中にもかかわらず、約八百名の学友が参加した。民青はこの日も独自集会をうたい、府学連に参加しないことを明らかにした。

その中で立命大では、自治会の多数の決定に拘束されず分裂行動をとる方針を決めた日共（代々木）京都府委員会の決定が、学友会の手で暴露され、大衆的な奮激をかっている。

京大では、さきに主流派執行部＝ブンドの提起した五・二八闘争を否決したあとをうけて何ら明確な闘争の展望を自治会執行部がうちだすことのできぬ中で民学同京都府委員会は、ベトナム闘争を日韓問題と結びつけ、民主勢力の統一行動をおしすすめつつクラス闘争委員会を強化することを呼びかけ、六月四日関西学生統一行動を呼びかけている。

またこの日の統一行動を組織する中で、立命大を始めとするさまざまな異なった潮流との行動の統一も、大きく前進した。

日韓会談粉砕、ベトナム侵略反対」の学内集会がもたれ、三百名の学生が結集し、平和を守る意思を強固に表明した。

又、愛知県学連においても、二十日、「全学連」統一行動を行ない約三千名の学生が立ちあがった。

さらに、九州、東海、北海道、東北においても、学生の統一行動がもたれ、日韓会談粉砕、ベトナム侵略反対のため全国の学友と連帯した運動が展開された。

領事館に抗議団 平民系は分裂行動

——兵庫県共闘会議——

大会報告決定集のお知らせ

近日中に、民学同第四回全国大会、報告決定集が出されます。

大変遅れて申しわけありません——が、御期待下さい。

民主主義学生同盟全国委員会

雨中、大阪府学連千五百名決起

行動予定

先日、開かれた関西学協において、六月四日、全関西京都一万名集会が提起された。

ベトナム、日韓問題に関して、京都、丸山公園において決起集会が行なわれ、デモ行進を行なう予定である。

東京においては、外務省包囲デモが行なわれる模様である。

又、六月九日、各地域で文化人学生集会が行なわれる。社会党、共産党、総評、中立労連、民主団体の統一闘争への集約が進められている。三度目の原潜寄港に早急な抗議行動が必要とされている。

六・四外務省包囲デモ 全関西京都集会の成功を

主張

六・九文化人・学生集会、社・共・総評 民主団体の統一闘争を実現しよう！

一　立ち遅れていた日本の学生運動は、アメリカの北爆再開を契機として、その不死鳥の如き生命力をよみがえらせ、新らたな昂揚局面を迎えようとしている。

5・20、21全国学生統一行動には、東大教養の全日ストを皮切りに、幾多の大学半日スト、授業辞退が行われ、激しい雨の中を、東京六千名、関西四千名の学友が結集した。これまでの地方性、分散性、不均等性は克服され、統一した全国的政治闘争に向いつつある。

だが、20、21闘争は、北爆反対＝アメリカ帝国主義への抗議闘争である。既に指摘したように、日本人民の特殊な任務は、アメリカのアジア政策の最強の同盟者である日本政府の犯罪性を暴露し、対政府闘争を目的意識的に追求することである。

すなわち日本でのベトナム闘争は、アメリカへの抗議と同時に、対政府闘争としてベトナム＝日韓闘争として、深化発展させなければならない。そのためのクラス討議の徹底——これが残された第一の課題である。

今一つ注目すべきは、私設「全学連」と「原潜日韓共闘会議」の二つの集会、二つのデモが行われたということである。東京では、20、21日別個に、関西では、同じ日に、同じ場所で。極端な例は大阪である。中之島公園で同じ時刻に二つの集会が行われ、大阪府学連の再三再四の呼びかけにもかかわらず。第二府学連（＝民青）の諸君はそれを拒否した。

大阪府学連千五百名の集会に対して、何故に三百名で別個の集会をもたなければならないのであろうか。かかる分裂という不幸な事態を克服しベトナム・日韓の統一闘争を実現すること——これが残された第二の課題である。

（二）「日韓懸案の協定文作成のための実務者間の折衝は五月末までに終り、従って正式調印は六月初めになろう。漁業問題が手間どっているがこれも深刻な対立をみせているのではない。」（李東元外務部長官の記者会見）にみられるように、日韓調印は、日韓支配層の予定通りのスケジュールの下に着々と進められている。

「他の民族を抑圧する民族は自由であり得ない」。いま必要なことは、社会主義世界体制と民族解放運動と帝国主義国の平和運動との強固な同盟をきずくことである。

再び抑圧国として登場しようとしている日本帝国主義とその代弁者＝佐藤政府へ砲火を集中せよ！

佐藤政府は原潜寄港承認を皮切りに、アメリカのベトナム侵略戦争支持、日韓会談促進等反動的対外政策を強行している。国内においても、吹原事件、山陽特殊鋼、山一証券問題等その破綻は明確になっている。

だが佐藤はのうのうと政権の座にいすわりつづけ、しかも反動＝佐藤色を明確に打ち出す内閣改造を行なおうとしている。われわれは佐藤内閣の引責総辞職を要求する。

（三）六月上旬日韓調印へむけて、労働者、市民、文化人学生等の闘いを包括し統一した全国的反政府闘争を組織しなければならない。そのため学生戦線は先進的役割を担わなければならないし、また担うことができる。

われわれは5・20、21闘争の成果の上に、六・四—首都における外務省包囲一万名デモ、関西における一万名の全関西京都集会を提起する。六・四は、真の全国学生統一行動として闘われなくてはならないし、民青「全学連」の諸君に、心から統一闘争を呼びかける。

六・四は、六・九各地域での文化人、学生集会——社会党、共産党、総評、中立労連民主団体の統一闘争（「一日共闘」）へ集約され、全平和勢力の大きは統一を実現する武器とならなければならない。

八日臨時国会へむけて、「一日共闘」は、ベトナム、日韓闘争の強力な恒常的な共闘実現への契機とする必要がある。実現しうるかどうかは一に下からの運動の盛り上りいかんにかかっている。

社、共の統一闘争の実現を前にして学生戦線は、二つの六月都学連結成、＝二つの全学連へ、一部指導部によって恣意的にねじまげられようとしている。二つの都学連結成は、分裂を固定化、拡大し統一を永久に遠のかせることしかもたらさないであろう。

原潜三度寄港に直ちに抗議行動を！

ベトナム、日韓で統一闘争を実現しよう！

二つの都学連結成を断固阻止し、一都学連再建をかちとろう。

京都、大阪府学連の統一を断固擁護し、第二府学連を粉砕しよう！

統一全国自治会代表者会議による統一した全学連を！

関西ブロック千四百名デモ
五・一三全国医学生統一行動

五月十三日全国の医学生は4・23の医学連統一行動にひきつづき医師法一部改悪案国会上程阻止のため行動にたち上った。

集会、デモは北海道、東北、関東、東海、関西、中四国、九州の各ブロックでもたれ、関西ブロックは全医学生の先頭に立って千五百名を結集して闘った。

関プロ参加校は京大、府立医大関西医大、大阪医大、阪大、市大神戸大、和歌山、奈良医大で各大学医学部から百名～二百名が参加した。

集会では各大学の取くみ状況が報告され、医学生の連帯感をつよくよびおこした。医卒連と医師会医学協、民医連からインターン闘争支持のあいさつがあった。

この日のデモの意義は4・23闘争で今国会成立を不可能にした医師法改悪案を継続審議案件として上程させないことであり、弱体化した医学部卒業者連合の願書拒否体制を全医学生の統一した闘いで支えることにあった。そしてわれわれはその第一歩をこの日のデモで勝ちとり国会上程はほぼ不可能になった。

われわれの今後追求すべき課題は第一にイ制完廃方針を全医学のものとし、学内での討論を基礎に署名を通じて学友一人ひとりの強固な意志確認をすること。第二に学内の意志統一をもとに教授会に正式にインターン問題について公式見解を出させ、学内教官全体がイ制廃止、発部教育について責任をもって検討するようつきあげること。

特に学術会議、医学部長会議の再度の声明決議勧告にもかかわらずそれが厚生省に有効な打撃になりえていない原因が廃止決議が単に医学部長の段階でとどまっていてそれが教授会、教官の公式な統一見解になりえていないところにあったことを反省するなら、われわれが教官との共闘すなわちその決議を教授会に支持させるよう働きかけ、教官を医学生の側にまきこんで闘いを展開していくことがとりわけ重要となろう。

教官、学生三百名結集
大市大「日韓、ベトナム討論集会」

わが同盟が提起し、20余のクラス・ゼミ・サークルからの支持決議をもとにして「日韓・ヴェトナム問題教官学生討論集会」が中執主催で行われた。

教官十数名、大学院生三〇数名、学生二五〇名の参加の下で開かれたこの討論集会は、これまでの自治会活動にはみられなかった、クラス・サークルの自主的・創意的参加があり「活動家」のわくをはるかに越えた画期的な集会であった。

中執委員長、立命大学友会からのあいさつの後、在日本朝鮮留学生同盟、決議を出した各クラスからの報告を受けた。

クラスが自主的に行った御堂筋プラカードデモや「ベトナムに平和を要求する会」の報告は集会参加者の圧倒的支持をうけた。クラス・サークルの自発的参加は、自治会活動の基盤を拡大するものとして、今后に大きな期待が寄せられている。

討論は、緊張し白熱した雰囲気の中で、三時間余にわたって行われた。途中、広範な学生から発言の要請があり、議長団内社学同の「活動家」の発言を重視する傾向、発言者の「他派への中傷」に激しい抗議がわきおこった。

討論集会の欠陥は、①充分日韓・ヴェトナム問題の本質運動の方向を明らかにし得なかったこと、②教官との連帯が社学同の横暴によって不当に軽視され、成果が得られなかったことである。

社学同の自治会ひきまわしの中で、わが同盟が中核となって、クラスから運動を再建し、その基盤の拡大を図っているが、この日の集会はその成果といえよう。集会の成功は五・二〇闘争の運動の基盤をつくった。

学術会議声明を支持
阪大工学部学内集会

五月二〇日大阪大学工学部において工学部職員組合と工学部学生自治会の共同主催による学術会議声明支持学内集会が二〇〇名の学生教職員を集めて成功裡に行われた。声明は日本学術会議の第四三回総会で決議された「ベトナム粉争に関して世界の科学者に訴える」と題されたものである。集会は職員組合委員長のあいさつに始まり工学教授学術会議会員岡田実先生の、決議が出された経過とこれから我々が平和に向って努力しなければならないという、主旨の報告がなされた。次に自治会からのあいさつと基調報告がされ討論に移り、アピールが満場一致で採択され、最後に、今後増々教職員と学生の共闘体制を強める事を確認した。

五・二八行動否決
トロツキストの野望粉砕

ブンド派トロツキストの提起した五・二八関西「三府県」学連統一行動をめぐって京大Cでは五月十八日自治委員会が行なわれ、採択の結果、賛成四七、反対五五、保留十二でこれを否決した。民学同を中心とする統一会議は、この間五・二八闘争のもっている誤りを原則的に批判し、ベトナムにおけるアメリカ帝国主義の行為の抗議単なる啓蒙宣伝に終らせることなく、真に実体ある闘争目標として自国「佐藤政府」のベトナム加担を暴露し、その実体化としての日韓基本条約本調印のなされる六月にむけて、ねばり強いクラス討議とクラス闘争委員会の組織の蓄積のうえで、六月四日京都での三府県学連統一行動を提起した。これには、大阪府学連、兵庫県学県連名の、また立命大一部学友会のよびかけも、京大に大衆的にまかれた。

今まで反民青、または反ブンドの無党派活動家の多くから、民学同のよびかけに多くの支持の声がよせられた。なお自治委員会の前のブンド派の民学同・民青への暴力に対する非難の声が多くの学友からのべられた。

原水禁世界大会
大網決る

原水爆禁止日本国民会議は八月六日、九日広島、長崎両市において「被爆二十周年原水禁世界大会」を開催することを決定した。

目標として、原水爆被体験の歴史的、世界的意義をあらためて再確認し、同時に、これまでの平和原水禁運動の総括の上に、平和共存全面軍縮の路線の再確認とその発展をはかるとともに、「日本非核武装宣言」と「被爆者援護法制定」運動を展開することをあげている。

またそれにむけて、大阪では七月三〇、三一日大阪府下平和大行進を行ない、八月一日討論集会を行うことが予定されている。

さらに二〇周年を機会に、あらためて被爆の実相や恐怖人間的苦痛を明らかにし、原水爆禁止運動に新しい息吹きを回復させるということが強調されている

学内の意思を結集
岡山大「平和問題の集会」

四月十九日、韓国学生革命記念日に平和のための学生委員会主催による「日韓会談粉砕、アメリカのヴェトナム侵略反対岡大集会」がもたれ約二〇〇名の学友が結集した。学期が始ってから始めての集会で、しかもほとんどクラス討議が組織されていない中で、平和組織による独自集会がもたれた意図は大きい。（この集会に平和委（民青系）に共闘を申し入れたがボイコットした）

集会では在日朝鮮統連の季子の講演が行われ、韓国学生との連帯が強調された。

「平和のための学生委員会」は、民青の諸君が中心になっている「平和委員会」のセクトのため多くの学友が参加できないので今年一月つくられたものである。

なお四月二六日には同じく「平和のための学生委員会」の主催により映画、「南ヴェトナム解放戦線」が上映され約四〇〇名の学友が結集した。

自治会めぐり（2）

自治会民主主義の貫徹を！
岡山大学自治会

記者―今日は岡大の自治会活動についてお伺いしたいと思いますが、その前に岡大の学生運動の特徴についてお話しいただきたいと思います。

答―岡大の学生運動は安保闘争はもちろんそれ以後の政暴法、大管法闘争もかなり広範に闘われてきました。地方大学における学生運動、とくに岡大のように四年制大学が一つしかないところでは刺激も少く、運動発展のためにはかなり多くの困難な点をもっています。にもかかわらず、地方大学にしてはかなり大きな闘争を組んできました。

記者―現在の自治会活動の情況はどうでしょうか。

答―大管法以後ほとんど自治会活動は機能マヒしてしまいました。この時自治会はいわゆる統一派の諸君が中心になっていましたが「無風状態」といってもよいような状態でした。統一派諸君の自治会の機能をマヒさせていたにもかかわらず、各単位自治会では、少くともゼミ活動だけは行っています。

自治会が実質的に再建されたのは昨年の六月の選挙からで、憲法闘争、原潜闘争と大衆的高揚をみせました。しかし統一派諸君の暴害によりせっかくの発展の芽を十分生かせなくなってしまいました。今後の自治会活動は組織づくりは一応終り、自治会民主主義の徹底化による本来の機能回復を最大の任務としています。

記者―現在かかえている問題はどのようなものがあります。

答―具体的には、日韓・ヴェトナム問題を中心にした政治闘争と、学内におけるカリキュラム問題、共済会、寮etcと上げれてきました。そのエネルギーが自治会の組織的崩壊を阻止してきました。したがって今でもほとんどの単位自治会では、少くともゼミ活動だけは行っています。

自治会が実質的に再建されたのは昨年の六月の選挙からで、憲法闘争、原潜闘争と大衆的高揚をみせました。しかし統一派諸君の暴害によりせっかくの発展の芽を十分生かせなくなってしまいました。今後の自治会活動は組織づくりは一応終り、自治会民主主義の徹底化による本来の機能回復を最大の任務としています。

記者―現在かかえている問題はどのようなものがあります。

答―具体的には、日韓・ヴェトナム問題を中心にした政治闘争と、学内におけるカリキュラム問題、共済会、寮etcと上げればきりのないほどあります。

昨年一年間、いわゆる政治闘争だけでなく、シンポジウム活動（カリキュラム問題、専門の研究）も行ってきているのでこの発展継承が必要とされています。また「平和と民主主義よりよき学園生活」というスローガンを実体化させるには、大学における運動の独自的任務の追求とその社会的関連性の追求が必要です。たとえば「教員養成制度」の問題と全般的教育制度改善のための国民運動との生きた関係のある運動の創造です。これは自治体闘争にもなりますが、真の意味で、学生運動が社会進歩の一翼になるにはこの点の追求が要求されていると思うので今各学部での準備を進めています。

記者―今日はどうもありがとうございました。

大学院からの報告

奨学金要求運動を中心に
全院協代表者会議開かる

全院協代表者会議は五月二、三、四日東大で開かれ、阪大理院協からは三名の代表が出席した。正式参加院協は七、準備組織または個人オブザーバーが他に七参加し、会議は成立しなかった。特に北大東北大、九大の欠席が大きく、東京地方の参加者の少ないのが目立った。全院協は五十九年に発足しこれまで白書活動、シンポジューム的大衆集会、奨学金要求統一署名運動等を行なっており、代表者会議はその最高決議機関である。

今年度の奨学金要求運動を中心とする全国運動を起こすに当り、大阪地区連絡会議はいままでのマンネリ化した署名、白書運動を克服する全国統一大衆行動方針を、三月に、全国に提起し、これについて検討するための代表者会議を早急に開くよう議長校である東大に対し要請した。その結果持たれたのが今度の代表者会議である。

奨学金問題は、大学院生のシビアーな生活状況とともに、全国統一行動を組み得る現実的課題であるがゆえに全院協発足当時からまた現在においても全院協の中心課題である。さらにそれは大学院の困難な諸問題の一環であり、科学研究教育全般の置かれている社会的地位の低さのあらわれであるがゆえに、教官層との共闘の下に、政府の科学技術、文教政策全般との対決の姿勢を打ちたてていく方向で、それら諸問題を解決する突破口として、われわれは奨学金運動を位置ずけ、重視するのである。

われわれのこのような基本的観点と、全国統一大衆行動の形態およびスケジュールは代表者会議において、一般的にはそのまま確認された。すなわち、

(1) 当面対文部省交渉をバックアップする全国統一的決起集会、デモを七月五日に、東京地区を中心とする全国各地で実行する。

(2) 署名運動をそのための盛り上げとして位置ずけ、同時に各院協集会、各地区毎の連絡体制、全国的ニュース体制の強化を計る。

(3) 教官への働きかけを全国統一的内容で下部からその上に直接、国、公、私大協、学術会議に対して行う。その内容、スケジュールは、国大協関係は京大に、学術会議関係は阪大に一任する。

(4) しかしながらスローガンを直接対象とする運動論をめぐる厳しい対立が東大、阪大、を両極端として表われた。すなわち東大は無条件給与という高度な要求と当面のスローガンであり、これに対して部分的スローガンをかかげることは最初から敗北主義であるという見解であり、この裏返しとしての運動の中心は説得活動である。これに対しわれわれは無条件給与は奨学金のこれまでの性格を根本的に変える程の高度な要求であるがゆえに、とくに現在の政府のムチ一本やりの政策とわれわれ自身の組織的な力量からは院生の身近かな要求を結集し得る当面のスローガンとしては現実的でない部分的要求を勝ち取っていく中でこそ初めて院協組織の強化が行われ、無条件給与に一歩近ずき得ると主張したが、ついに対立の克服は今後に残された。

以上のように一応の行動の展望は開かれたが、東大を中心として根をはっている誤まった運動論のもとで、全国運動の成否はまさに大阪地区での運動が実際にどれだけ進展するかにかかっているといえる。われわれは全院協のこの弱点を意識的に克服する方向で大阪地区の運動を起し、それを足がかりに七月行動を成功させ、秋の予算編成時での大デモンストレーションへと運動を発展させる展望を切り開かねばならない。

（阪大理学部大院協・K）

労働者からの報告

階級的な闘いへ前進

春闘はいまなおいくつかの単産有力な単組において激しく闘われている。春闘が今年のように長期にわたりかつ、激しつ闘われたことはかってなかったことである。しかもそれが戦後日本資本主義最大の深刻な不況局面のもとで闘われたことを考えあわせるならば労働者の示した頑強で鋭い反抗は日本の労働運動の新しい画期を表わすものといえるのではなかろうか。

今春闘における資本の強力な結束は労働者の側において予期せざるものであった。過剰生産の圧力による利潤率の低下を可変資本＝賃金の抑制によって取戻すために彼らは異常な決意をもって春闘に臨み、労働の側に優る強固な戦線の統一を図り、大幅賃上げの要求を粉砕せんとしたのである。見事に足並みをそろえた低額の回答は少々のストライキではいささかも動じず、ここに至って、要求討議の不充分であった、したがってそれだけ不況宣伝に侵蝕されていた組合は資本の一発回答に屈服し戦線から脱落せざるを得なかった。だが、多くの単産は一般組合員の憤激をぶちまける形で更にストライキを継続強化していった。そうして、金属機械産業においてはその下限を規制した鉄鋼の二、五〇〇円にそれぞれの単産・単組の闘った実績に相応するものを上積みしていったのである。（四、〇〇〇円を上限とし、多くは三、〇〇〇円までの間で。さらに化学産業では「好況」の要素がプラスして三、五〇〇円～四、〇〇〇円が多い）

今春闘において最強の戦闘力を発揮した全国金属・鉄骨橋梁関係の労働者は同盟系の組合とも共闘を組み、二〇日ないしは二十五日間にわたる全面無期限ストをうってついに四、〇〇〇円の賃上げを勝取った。

スト権を剥奪されている全電通労働者の二回にわたる半日ストの成功。電機労連・阜川、東芝の頑強な闘い。今なおきびしい対決を資本に迫っている航空関係労働者。総じて、春闘参加の多くの組合が独占の不況攻勢に抗して、組織結成以来最大の実力行使をもって立ちあがったということ――これらの事実は、日本経済の高度成長の課程で「ワケマエ分捕り」的な賃金闘争によって隠蔽されていた資本と賃労働の絶対的な対立関係を今や日本の労働階級は認識しつつあることを物語っており、したがって今後の階級闘争が独占資本と労働者階級の力関係をいっそうアラワに表現しつつ展開されるであろうことを予測させるものである。

（全金大阪地本　M・H）